

論理国語 単元指導計画

日時	令和〇年〇月〇日（〇）	場所	3年〇組教室
クラス	3年〇組	授業者	〇〇 〇〇
科目名	論理国語	単元名	「書く」一問いに答える
使用教材	「知的創造のために」 『書く』ことへの挑戦—小論文を書く—	使用教科書	探求 論理国語 （桐原書店）
教材観	本教材は、「書く」ことのあり方に焦点を当て、ある課題に対して自分の意見を論じる、というものである。自分の意見を論じるに当たっては、単に言いたいことを書くだけではなく、読む人の立場になって自分の書こうとしていることを客観的に読んでみるのが大切である。小論文やレポートなど、論理的な文章、学術的な文章を書くうえで必要な客観性や妥当性を自ら考え文章を推敲していくことは、それらの内容をより高次なものへと引き上げるために必要であり、本教材はそのような資質・能力を身につける教材としてふさわしい。		
生徒観	男子〇人、女子〇人の理系クラスである。男女隔てなく仲が良く全体的に落ち着いており、授業にも真面目に取り組んでいる。自分の意見や考えを表現することに抵抗感は少ないが、自らの考えたことを批判的な視点をもって熟考する機会に乏しいため、本単元を通して批判的思考力を身につけることを目指す。		
指導観	本教材では、小論文を書くことを最終的な目標として設定しているが、成果物自体の評価よりもその過程を重視した授業展開を目標とする。与えられた学習課題について自分の意見メモを作成した上で、自らの意見を「他者の視点を意識して」情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自らの立場や論点を明確にして主張できることを目指したい。		

1 単元の目標

(1)主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができる。

〔知識及び技能〕(2)ア

(2)多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)エ

(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の言語活動

設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、さまざまな観点から自分の意見や考えを論述する。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)エ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 (2)ア)	① 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。 (A(1)エ)	① 小論文を書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全5時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○知的創造のために必要な要素を理解する。	〔知識・技能〕①	「記述の点検」
第2次 (3時間)	○小論文の構成について理解する。 ○テーマについて「主張」と「根拠」を挙げる。 ○「他者の視点」を意識して想定される反論を考える。 ○想定される反論に対して自分の意見の妥当性を再度説明する。 (本時2／3)	〔知識・技能〕① 〔思考・判断・表現〕①	「記述の点検」
第3次	○前時までの取組を踏まえて小論文を書く。 (800字程度) ○単元の振り返りを通して自らの学習を省察する。	〔思考・判断・表現〕① 〔主体的に学習に取り組む態度〕①	「記述の分析」

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「知的創造のために」の内容を読み、知的創造のためには他者と想像上の対話が必要であることを理解する。	・本単元を通して客観性のある小論文の作成をテーマにすることを意識付けする。 ・ペア活動で本文の内容を確認しながら、内容を確認する。	〔知識・技能〕① 「記述の点検」ノート ・記載内容を点検する。
2	○教科書の例をもとに、小論文の構成について理解する。 ○「AI が人間を超えるとき、社会はどうあるべきだと考えるか」というテーマについて「自分の主張」「主張の根拠」を書き出す。 (ワークシート①・②)	・前時の学びを通して他者の視点をもつことの重要性を意識させる。 ・ワークシートに「主張」を一文で書き、「根拠」は箇条書きでまとめていくよう指導する。	〔知識・技能〕① 〔思考・判断・表現〕① 「記述の点検」ワークシート ・記載内容を点検する。
3 (本時)	○前時で挙げた「主張」と「根拠」に対する「想定される反論」を3つの視点から書き出す(ワークシート③) ○グループに分かれ、それぞれのワークシートに書かれた「主張」と「根拠」を参考に「想定される反論」を指摘する。	・3つの視点について「想定される反論」とその反論の根拠を箇条書きでまとめるよう指導する。 ・グループでワークシートを共有し3つの視点に従って反論をまとめるよう指導する。	〔知識・技能〕① 〔思考・判断・表現〕① 「記述の点検」ワークシート ・自らの主張と根拠に対して各視点で想定される反論を記述できているかワークシートの記述を確認する。
4	○前時の「想定される反論」に対する再反論するための根拠を集める。 ○集めた根拠をもとに再反論を試みる。	・インターネットで情報を集める際に出典を確認したり、複数のデータを比較したりして客観性を意識して根拠をまとめるよう指導する。 ・調べた根拠をもとに再反論を箇条書きでまとめるよう指導する。	〔知識・技能〕① 〔思考・判断・表現〕① 「記述の点検」ワークシート ・記載内容を点検する。
5	○ここまでまとめた要素をもとに小論文を作成する。(800字程度) ○単元の振り返りを通して自らの学習を省察する。	・書くのが苦手な生徒には教科書の例に沿って小論文を作成するよう助言する。 ・「他者の視点をもって」小論文を作成する上で考えたことや今後にかかしていきたいこと等をまとめるよう促す。	〔思考・判断・表現〕① 〔主体的に学習に取り組む態度〕① 「記述の分析」小論文の記述 ・記載内容を分析する。

《本授業における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

「論理国語」の「内容」の〔思考力・判断力・表現力等〕「A 書くこと」に関する指導については、「内容の取り扱い」(1)アに「50～60 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「A 書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]①の「主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている」状況を、「テーマに関する自らの主張と根拠に対し想定される反論を自ら考え、主張に客観性をもたせようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートや小論文の記述を点検して評価する。

ワークシートに記述できていない状況を C と捉え、グループワークで周りの生徒からの助言を受けるよう促す。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現]①の「多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている」状況を、「想定される反論と反論に対する再反論を、他の生徒の助言等を踏まえて小論文にまとめている」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、小論文の記述を分析し評価する。

小論文を書くことができていない状況を C と捉え、ワークシートにまとめた内容や教科書に記載の小論文の構成を踏まえて書くように促す。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「小論文を書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、論理の客観性や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「小論文の論述を通して理解した知識や技能を活用して論述している」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、小論文の内容、振り返りシートの記述、自己評価を分析し評価する。

本単元を基に多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりできていない状況を C と捉え、ワークシートにまとめた内容を踏まえて書くように促す。

6 学習指導案(3時間目/全5時間)

本時の目標：ア テーマに関する自らの主張と根拠について想定される反論を考え、まとめることができる

〔知識・技能〕

言語活動：テーマについて「想定される反論」を3つの視点を参考に自ら考えたり、グループで交流したりして自らの主張の客観性を深める。

本時の展開：

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	□前時の内容と本時の見通しを確認する。	・教科書 284～286 ページにある、「知的創造のために」は「他者が納得できる」文章を書く必要があることを全体で確認する。 ・本時で前回挙げた主張と根拠について「想定される反論」をまとめていくことを確認する。	・適宜、本教材の関連教材である「世界の見方を変える」の記述の確認をする。
展開① 20分	□ワークシートにある想定される反論を考える。	・前時に書いた「AI が人間を超えるとき、社会はどうあるべきだと考えるか」というテーマに対する主張と根拠に関して、以下の3つの視点をもって想定される反論を考える。 視点1 感情的な反対視点 視点2 合理的な反対視点 視点3 逆張りの反対視点	・3つの視点の特徴や違いを明確にし、反論を考えるよう指導する。 ・「想定される反論」と想定できる理由を箇条書きでまとめていくよう指導する。
展開② 20分	□グループで交流し、想定される反論の内容を深める。	・それぞれでまとめたワークシートをグループで共有し、他者の主張に対して想定できる反論を箇条書きでまとめていく。	・他者の意見に対する想定される反論を考える際、既出の意見であっても記述するよう指導する。 【目標アに対する評価規準と評価方法】 規準：主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 方法：「記述の点検」(ワークシート、机間指導) 〔状況Cに対する手立て〕 ・周りの生徒から助言を受けよう促す。
まとめ 5分	□次回の予告	・次回は今回想定した反論をもとに再反論を試みることを確認する。	・再反論の際に情報の妥当性を踏まえた記述になっているか確認することを伝える。